



日本キリスト教団
三軒茶屋教会

三軒茶屋 教会通り

第19号 2003年12月発行

〒154-0024
東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5
TEL/FAX: (03)3418-4933
編集/発行: 広報部

光よ闇を照らせ



牧師 陣内厚生

クリスマスが近づきます。この時期、私たちは聖書の深みからかけられる預言者の声に心引かれます。「闇の中を歩む民は、大いなる光を見、死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた」(イザヤ書九の二)と。いったい、「闇の中を歩む民」とは、「死の陰の地に住む者」とは、だれのことをさすのでしょうか。預言者イザヤが見たものは、人間の愚かな計りごと、繰り返される戦争によって国土は荒廃し、人心は失意の状態にありました。武力に頼ろうとした結果が、こうした暗澹たる世をもたらし、何かの解決の手が必要なのです。そこには勝者も敗者も意味をなさず、人間すべてが闇に包まれていると言わねばなりません。

しかし、イザヤは「大いなる光」を見たのです。それは、このような世で人びとが自ら造り出せるものはありません。天の高みから輝き注ぐ光です。この救い難い闇の世を憐れみ、そこに希望の光を照らさねばならないと考えられた神のご意志なのです。イザヤは混乱の中で、時代を超えて啓示されるメシヤ到来の幻を見たことでしょう。実にキリスト前(紀元前)七百年も昔のメシヤ預言でした。

そして、新約聖書ではザカリヤの預言の中にこうあります。「高い所からあけほのの光が我らを訪れ、闇闇と死の陰に座している者たちを照らし」、それは「我らの歩みを平和に導く」(ルカ福音書一の七八―七九)のです。現代の世界を見わたす時、そこに見えてくるものは、やはり戦乱、民族紛争、貧富の差、自然破壊。そしてそこに起こる敵愾心、排斥、恐怖と不安、生活苦 etc. 「暗闇と死の陰」は、時代が進んでも無くなるどころか、ますます増大しているではありませんか。

しかし、神の約束は今や実現し、私たちが光のもとに導いてくれるのです。さまざまな悪しき条件や環境から、「平和に導く」、決定的なわざがなされます。イエスの誕生とその生涯―それを象徴するように飼いたる葉桶に横たわるみどり子が、私たちが闇のなわめから解き放つてくださること、これがクリスマス秘義なのです。

ところで光にあずかった者、聖書の記事で言えば、天使からメッセージを受け、ベツレヘムの馬小屋に駆けつけた羊飼いたち。彼らはみどり子イエスに出会い、大いに変えられたのです。「光」であるイエスこそ自分たちのすべてを理解し、受け入れて下さり、共に生きて下さる方であることを飼いたる葉桶の中に見、喜んだことでした。彼らは主の光の中で、自分たちの現実の「暗闇や死の陰」から解き放たれたことを確信し、神をあがめ、讚美しながら帰って行きました。

クリスマスは、私たちに夜の闇の深さを知らせませす。と同時に光を照らし、光の真実さを教えています。創造の初めに「光あれ」と言われた神は、人間の悪しきわざなる暗闇の世に救い主を遣わし、光輝かせて下さいました(ヨハネによる福音書一の五)。この主イエス・キリストこそ、私たちの希望の光であり、クリスマス究極の喜びです。